

項目名	役割	行動指針	実施時期
ふれあいゾーン建設	1	2	19年度

概要

○展示の目的 伝えたいメッセージ

- ・こども動物園／動物とのふれあいを通じて「いのちの大切さ」や癒しを伝えるとともに、地元の野性小動物の展示や総合学習の飼育体験受入など環境教育の入口とする。
- ・カンガルー館／カンガルーなど有袋類の特異性やスローリスなど夜行性動物の特徴など通じ動物の進化と適応を学ぶ。

○展示方法の工夫

- 「ドサンコの森」:ウオークスルー方式にし森を再現し道内産小型野生動物を放し飼いするとともに、ケージや水槽での展示も実施する。
- 「ビーバーの森」:ビーバーの巣作りやアライグマをガラス越しに間近に観察でき、プレーリードッグの国内初の巣穴展示を実施する。
- 「ウサギ・ニワトリ牧場」:ウサギやニワトリと自由にふれあうことのできる広いスペースを設置する。
- 「ヤギ山」:ヤギの高いところに登る習性を生かした展示をする。
- 「カンガルー館」:夜行性動物の行動を活かす展示を行う。

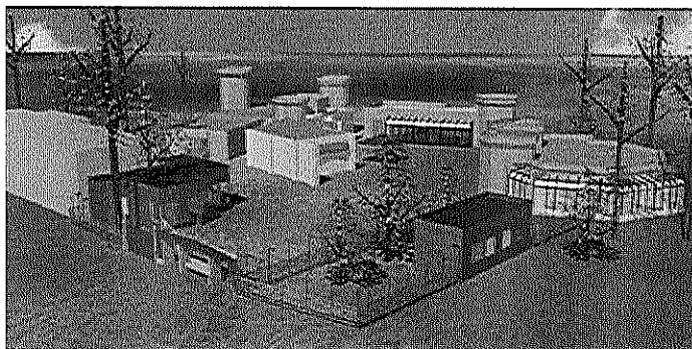
○飼育展示動物

- ・こども動物園／トカラヤギ、ヒツジ、ニワトリ、モルモット、ビーバー、プレーリードッグ、エゾタヌキ、エゾユキウサギ、エゾリス、エゾシマリス、エゾモモンガ、リスザル
- ・カンガルー館／ハイロカンガルー、ベネットアカカンガルー、フクロギツネ、モモイロインコ、スローリス

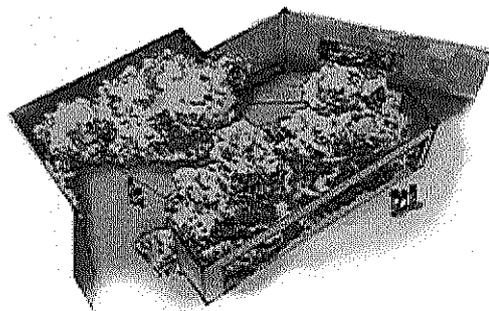
スケジュール

- 2007年度(平成19年度) こども動物園改修、カンガルー館改修
- 2008年度(平成20年度) 第二期こども動物園改修(ヤギ山)

参考図表等



こども動物園 完成イメージ
ふれあいを通じ命の大切さを学ぶ場



ドサンコの森 完成イメージ
森の中へ観察しに行くような展示

項目名	役割	行動指針	実施時期
動物科学館改修	1	2	24以降

概要

現在の動物科学館は、平成2年度に竣工した建物で竣工の際に展示物や遊具を固定しているため容易に入替等ができず、故障してもそのまま放置されている遊具・展示物があり、その展示内容も陳腐化している。

今後は、固定展示や常設遊具を撤去し、可動式展示等への転換を図る。

なお、当面の展示として平成18年1月に死亡したアジアゾウ「花子」の骨格標本の展示等を進めていく。

スケジュール

2007年度(平成19年度)

平成20年1月にアジアゾウ「花子」の骨格標本展示のため、一部の固定展示を撤去
今後、新たな展示品の導入に合わせて、暫時、可動式展示に切り替えていく。

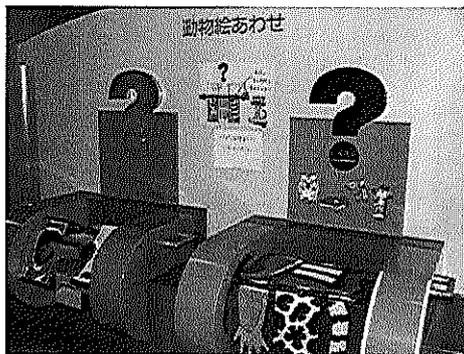
2011年度(平成23年度)以降

動物科学館の大幅な改修

参考図表等



動物科学館 外観
屋上には太陽光発電設備



老朽化し壊れた固定式遊具
の

項目名	役割	行動指針	実施時期
トイレ・授乳スペースの整備	-	-	19年度

概要

動物園では昭和55～56年に建設し、和式大便器のみの老朽化した木造トイレが2か所ある。また、今まで授乳室の積極的な整備をあまりしてこなかったことから、授乳室不足が生じている。更に、動物とのふれあいにより、数多くの手洗いスペースが必要とされている。そのため、来園者が快適に利用できるようトイレ・手洗い・授乳スペースを整備する。なお、既存施設については、清掃の徹底を行い快適な環境を確保する。

スケジュール

2007年度(平成19年度)

5月 第一レストハウス授乳室を増設(1室→4室)

3月 エゾシカ・オオカミ舎に男女トイレ、多目的トイレ、授乳室3室を設置(旧式トイレ解体)

3月 こども動物園に男女トイレ、多目的トイレ、授乳室2室を設置

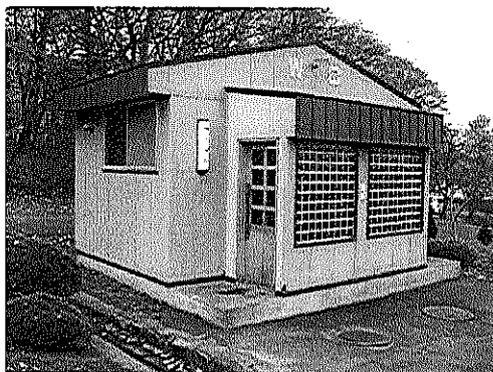
2008年度(平成20年度)～

新は虫類館に多目的トイレ、授乳室を設置(旧式トイレ解体)

2010年度(平成22年度)～

モンキーハウス横にトイレ建設

参考図表等



和式便器の旧式トイレ

項目名	役割	行動指針	実施時期
野外ステージ建設	-	-	24以降

概要

野外ステージは昭和46年に木造で建設され、ゴールデンウィークを中心にキャラクターショーなどのイベントに利用されているが、施設・設備ともに老朽化しており、利用できるイベントが限られている。また、照明等も無く日没が早い時期は使用できないなどの問題も抱えているため、建替えを行う。新ステージは、様々なアトラクションやイベントを行い園内のにぎわいの中心となるとともに、イベントのない時にも来園者がくつろげるスペースとして新設する。

スケジュール

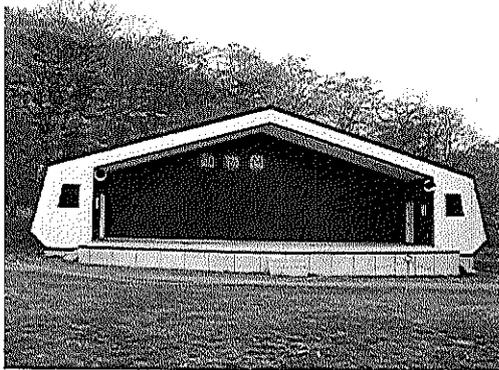
2007～2008年度(平成19～20年度)

現在、使用に耐えないスピーカー、アンプ等の音響装置を更新

2011年度(平成23年度)以降

新野外ステージ建設

参考図表等



現在の野外ステージ

項目名	役割	行動指針	実施時期
コンビニエンスストア、カフェ、レストラン、ミュージアムショップの誘致	-	-	19年度

概要

入園者サービスの一環(アメニティ施設)として既存の食堂・売店が7店舗あるが、景観を損ねる外観や価格・味・接客態度における苦情が多いこと、お土産についても円山動物園らしい特徴がない状況にあるため、今後の入園者数及び満足度の向上のため、新たにレストラン、コンビニエンスストア、カフェ、ミュージアムショップ(公式グッズ販売店)を整備する。

店舗の新規参入にあたっては、広く提案を公募し、環境への配慮、動物園らしさ、時代ニーズとの適合性、円山動物園への支援策などを考慮し、具体的な導入時期等を判断する。

<期待する効果>

- ・食環境の充実によるリピーターの定着(レストラン)
- ・都会における休日の過ごし方の提案(カフェ)
- ・ATMや生活必需品販売による滞在時間の拡大と客単価の向上(コンビニ)
- ・公式グッズ展開によるブランド化とライセンスビジネスの成立(ミュージアムショップ)

スケジュール

2007年(平成19年)10~11月 新規参入店舗の提案募集(第一次)

2008年(平成20年)4月~ 一部新規店舗オープン

参考図表等

--

項目名	役割	行動指針	実施時期
園内交通の整備	-	-	23年度

概要

円山動物園は、南北約700メートル、東西約400メートル、高低差約40メートルの傾斜地であるため、お年寄りや障がいがある方が、園内全てを容易に移動し観覧するのは厳しい状況にある。一方、園内の遊具施設(キッドランド)は、老朽化が著しく更新には多額の費用を要することから、これを運営する民間会社も新規投資と存続について否定的である。そのため、園内のリニューアルに合わせて、園内の遊具施設を廃止し、来園者の利便性を高めるためバリアフリー対応の周遊観覧交通へと転換する。

スケジュール

2007年度(平成19年度)

遊具施設の運営会社によるバリアフリー対応周遊観覧交通への転換検討
実現可能な周遊ルート等の検討

参考図表等



子供の国キッドランド
(平成7年に中島公園から移転)



老朽化した遊具
平日は一部しか営業していない

項目名	役割	行動指針	実施時期
環境にやさしい施設への転換	1	1	19年度

概要

施設そのものも環境教育の教材となるよう「環境にやさしい施設」を目指して、円山動物園における資源やエネルギーの効率的活用を行う。

<具体的な取り組み>

- ・水や熱の循環設備の導入による省エネ・水資源節約
- ・新エネルギー・自然エネルギーの積極的な活用(次世代エネルギーパーク構想)
- ・園内で排出されるフンやごみの再資源化(次世代エネルギーパーク構想)
- ・環境教育のため園内のごみ分別を家庭ごみ分別方式へ転換、ごみ箱を増設

スケジュール

2007年度(平成19年度)

- ・自然エネルギーについて札幌市の次世代エネルギーパーク構想で導入検討
- ・省エネルギーのための熱源転換や水の循環、再利用化の計画
- ・ごみ分別方式変更の準備としてごみ箱購入、段階的に分別

2008年度(平成20年度)以降

- ・次世代エネルギーパーク構想に基づき自然エネルギーの導入方法、時期等を決定
- ・熱源転換・水循環等の設計、ルート・設置位置の決定、排水管整備等

参考図表等



動物科学館に設置している太陽光発電(出力5kw)
(特定非営利活動法人 ひまわり種の会設置・所有)



現在は事業所方式の3分別
(燃やせる・プラスチック・ビンカン)

項目名	役割	行動指針	実施時期
エントランス機能の充実	-	-	22年度

概要

円山動物園のエントランスは、動物がいそうな雰囲気演出したり、楽しさや期待感を感じさせるものが相応しい。
 外観を見ただけでも入りたくなるエントランスは、多くの来園者を誘引し動物園の顔としての機能を果たすものである。
 よって、現在の門を改修し、より魅力あるエントランスにすべく正門・西門の建設を行う。
 また、新たに南側入園口機能の整備(レストラン機能を兼ねる)を行い、円山西町住宅街からのアクセスを利便化する。
 これに合わせて業務の効率化のため、券売の自動化を行う。

スケジュール

2007年度(平成19年度)～
 券売の自動化検討・券売機の導入
 2010年度(平成22年度)
 レストラン機能を兼ねた南側入場口を建設
 2011年度(平成23年度)以降
 2階建て食堂・売店・園内交通駅機能を兼ねた西門(宮の森ゲート)を建設
 正門(円山ゲート)を建設

参考図表等



現在の正門



現在の西門

項目名	役割	行動指針	実施時期
臨時駐車場の確保	-	-	23年度

概要

円山動物園は隣接する円山公園駐車場として833台分の駐車場を保有しているが、近隣に大規模な民間駐車場がないため、ゴールデンウィークなど繁忙期には最大3時間待ちの渋滞を招いている。今後、入園者数100万人を達成するにあたっては、公共交通の利用促進はもちろんだが、ピーク時の駐車場対策についても検討が必要である。

<駐車場対策の具体例>

少し離れた場所にある民間駐車場との契約や、近隣公共施設の駐車場と提携し、そこからピストンバスを運行する。

歩道アクセスや遊歩道表示の改善、地下鉄とのセット券の販売により公共交通機関の利用を促進する。

スケジュール

2007年度(平成20年度) 民間駐車場との調整・検討開始

参考図表等

項目名	役割	行動指針	実施時期
飼育動物の考え方	1	2	18年度

概要

円山動物園では園内をゾーン・エリアに分け、各ゾーン・エリアごとにテーマと伝えるべきメッセージを設定する。

飼育動物については、コレクション的に種類を増やすのではなく、このテーマとメッセージを担うべき動物に「選択と集中」を行う。このことにより、単に珍しい動物を展示する動物園ではなく、社会的な役割を担いメッセージを伝える「本物の動物園」を目指す。

<各ゾーン・動物舎の役割とメッセージ>

【北海道・北方圏ゾーン】

テーマ:人と自然の関係／メッセージ:「自然と地球環境を守ろう」

【野生復帰・自然体験ゾーン】

テーマ:希少動物の野生復帰／メッセージ:「生態系を守る行動をしよう」

【は虫類・鳥類エリア】

テーマ:高い技術に基づく希少動物の繁殖／メッセージ:「生物多様性の重要性」

【アジアゾーン】

テーマ:アジアの環境の多様性／メッセージ:「希少動物とその生息域を守ろう」

【アフリカゾーン】

テーマ:いのちの共存と食物連鎖／メッセージ:「命はつながっている」

【類人猿・モンキーエリア】

テーマ1:エンリッチメント／メッセージ:「動物の行動の面白さ」

テーマ2:開発に伴う自然破壊／メッセージ:「森を守ろう」

【ふれあいゾーン】

テーマ1:いのちの大切さと環境教育／メッセージ:「いのちに触れよう」

テーマ2:動物の進化と適応／メッセージ:「有袋類・夜行性動物の不思議」

スケジュール

各動物舎において逐次実施

参考図表等